

医療連携推進コーディネーターと 地域医療連携推進法人江津メディカル ネットワークの取り組み



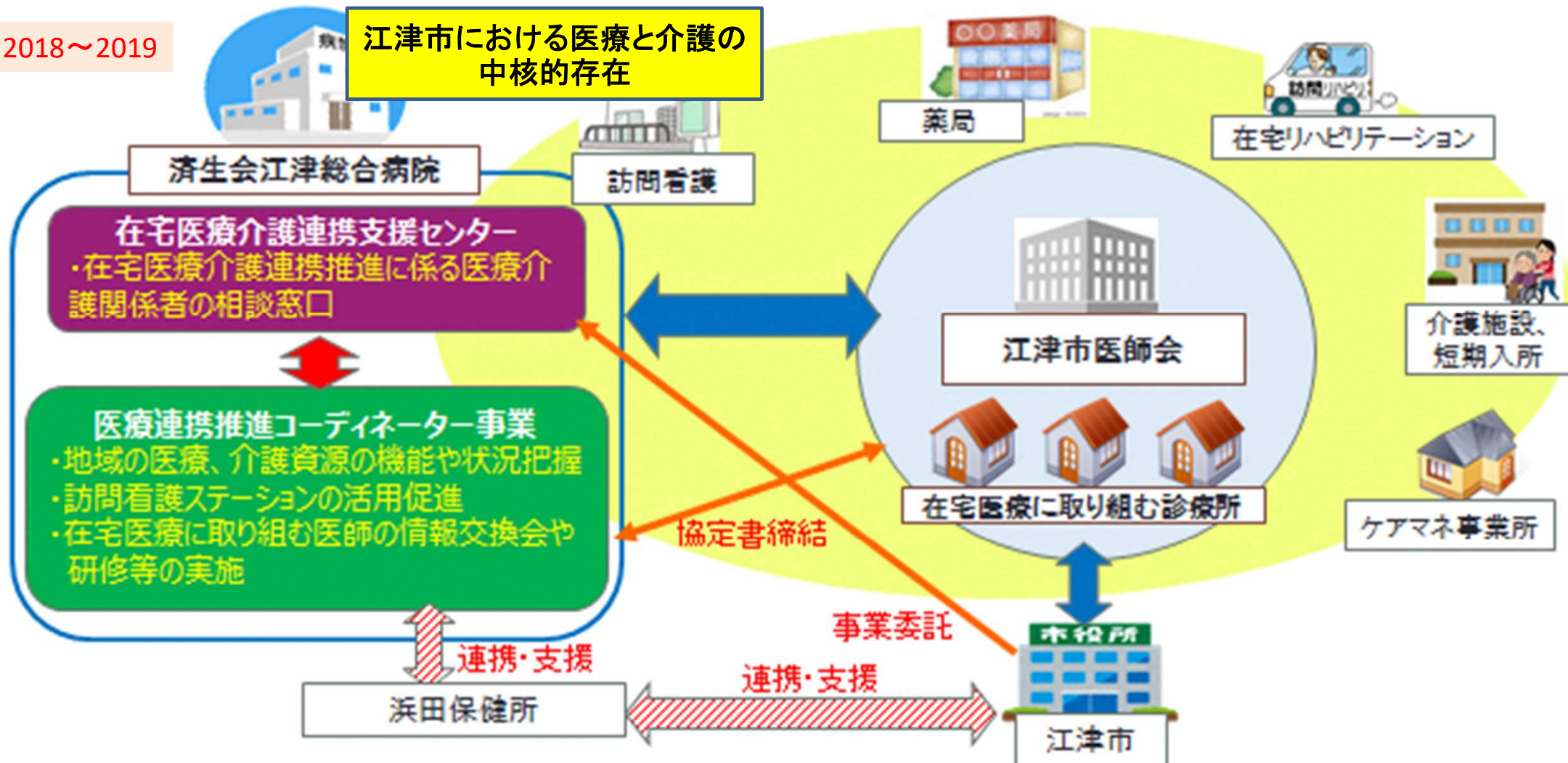
島根県済生会江津総合病院

2021年3月11日

江津市医師会と済生会江津総合病院の連携イメージ（一部改変）

2018～2019

江津市における医療と介護の中核的存在



医療連携推進コーディネーター事業開始前に決めた3年間の方向性

江津市医師会 医療連携推進コーディネーター配置による取組計画概要

2018年8月 担当者打合せ会資料

目的： 地域医療構想の具体化に向けて、地域の病床分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保

事業内容： 済生会江津総合病院に「医療連携推進コーディネーター」を配置(委託)し、在宅医療の供給についての検討や、病院・行政等との調整を行う

期待する効果： 医師会の在宅医療供給検討体制の構築 例) 在宅医療に関する検討の場設置、他職種合同症例検討の場設置、病診連携促進(連携ツール作成など)

事業の柱		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	目指す体制(案)
		1年度目<10月~>	2年度目	3年度目	4年度目<~9月>	
1 地域の医療や介護資源の機能の把握	地域医療資源の把握と情報提供	「浜田圏域在宅医療・介護連携のための関係機関機能情報一覧(H29)」の活用				・最新の適切な情報提供による、相談対応の実施
	新たに訪問診療に取り組む医療機関への相談・助言	※情報更新の検討 相談窓口(振り分け・つなぎ)設置				
2 訪問看護ステーションの活用促進	訪問看護の役割や連携等の理解を深める医師向け研修会		訪問看護利用症例検討会等の開催	訪問看護利用症例検討会の開催 ※職種拡大	症例検討会の定着	・訪問看護活用の定着による在宅医療の促進
	★症例報告・症例検討(訪問看護利用にかかる症例) ★地元病院、訪問看護ステーションとの連絡調整		定期的、または随時連絡会の開催			
3 在宅医療に取り組む医師による、連携に向けた意見交換会の開催	在宅医療に取り組む医師による連携に向けた意見交換	在宅医療に取り組む医師へのヒヤリング	在宅医療に取り組む医師へのヒヤリング	在宅医療に取り組む医師へのヒヤリング	医師会内に検討の場の設置	・体制等検討の場設置 ・在宅医療に取り組む医師の負担軽減
		済生会病院と医師会の連絡会開催	済生会病院と医師会の連絡会開催	済生会病院と医師会の連絡会開催		
4 効率的で質の高い在宅医療提供体制の構築	24時間対応の在宅医療提供体制構築に向けた検討	保健所、市主催会議等への参画による現状・課題共有	医師会、行政等との検討			・江津医師会としての在宅医療提供体制検討の体制づくり
5 病床の機能分化・連携に向けた調整への参画	病床機能分化・連携について病院や関係機関、行政と課題共有し検討		保健所、市主催会議等への参画による現状・課題共有			

江津市医師会医療連携推進コーディネーター事業の今後の進め方 ～全医師会員に実施したヒアリング結果より～

目指すところ

在宅医療提供体制の維持、検討体制の構築

ヒアリング結果の情報発信

新規開始訪問診療医サポート

訪問診療医の負担軽減

24時間体制の在り方検討

済生会病院との連携強化

他職種との連携強化

訪問診療開始医への助言、情報提供

訪問看護師・リハ職との意見交換会

訪問診療医間の連携・交流

訪問診療について市民への啓発

済生会病院との意見交換

症例検討・事例紹介

ケアマネとの意見交換

情報共有ツールの検討

取組の柱

具体的な取組案

コーディネーターが、聞き、動き、つなぎ、調整します！

医療連携推進コーディネーター事業の取組

I 在宅医療提供体制の現状把握

①病院・診療所・歯科医院の機能調査(2019年版の情報更新)

②訪問看護・ケアマネとの連携

⇒訪看STへのヒアリング・ケアマネ部会・研修会への参画

「先生と顔なじみになる会」企画・医師とケアマネ等との情報連携の推進

II 在宅医療提供体制の課題と解決策の検討と実施

①コア会議・理事会・保健所江津市連絡会

III 情報交換・意見交換の実施

①病院医師と医師会員の意見交換会

②病院退院調整部門スタッフと医師会員意見交換会



着実に情報連携が進んでいる

医療連携推進コーディネーター事業第10回コア会議

日時：R2年12月1日（火）19時～20時

場所：済生会江津総合病院第1応接室

売り：医療連携推進コーディネーター事業を医師会と具体的に協議する場として設置。江津市医師会代表3人、事務長、保健所、コーディネーター等で構成する。この場で協議した結果を医師会の理事会にかけ、医師会員に発信する。事業の方向性、評価などを行い、らせん状の事業展開が可能となる。

【成果・課題】

- ・「船津先生と顔なじみになる会」について好評であったことを報告。次は、12月に應儀先生と顔なじみになる会を開催予定。
- ・1月に岡田先生、2月に沖田先生の予定。
- ・医師会員・病院医師との意見交換会については、定期開催も検討することとなる。
- ・意見交換会の第3回目は、訪問看護・訪問リハと実施する。
- ・看取り代診医の要綱変更（死体検案書）、当番医の待機時間について概ね原案通りとなる。
- ・退院情報について、11月中旬より、病院から送っていることなど報告。



江津市医師会12月理事会（医療連携推進コーディネーター事業）

日時：R2年12月8日（火）18時45分～19時15分

場所：江津市医師会館

売り：10～11月末までの活動報告と今後の取組について、医師会理事会の場で承認及び協力依頼を行う。

【確認及び承認事項】

- ・コーディネーター通信の12月通信の内容について確認と了承。
- ・看取り代診医紹介システムの要綱改正と登録医の待機時間について、了承。
- ・顔なじみになる会について、船津先生(11/12)は好評に終わり、12月は應儀先生と会を開催予定
- ・1月岡田先生、2月沖田先生と開催予定となる。
- ・医師会員と病院医師の意見交換会は好評に終わり、定期開催も検討する。
- ・第3回目は当初の予定通り、訪問リハ・訪問看護と実施する。
- ・まめネットの同意について、閲覧希望機関について江津市内の機関であれば複数記載可能となり、各機関でまとめて同意を取ることが承認された。



第6回 應儀先生と顔なじみになる会

日時：R2年12月15日（火）14時00分～15時30分

場所：應儀医院 外来待合室

売り：診療中の先生に連絡が取りにくく、連携不足となってしまう現状があり、「先生と顔なじみになる会」を企画し、医師とケアマネジャーとコミュニケーションを図り、連携性を向上させることを目的として開催。

キャッチフレーズ：

「日頃、お医者様とお話することに苦手意識はありませんか？先生の前で思うように話せない、電話をするときにドキドキするなどありませんか？その思い、解決に向けてお手伝いします！應儀先生があなたのために時間を取ってくださいます。またとないこの機会に顔なじみになりませんか？」



・済生会の医師は14名しかいない。この状況の中で診療を続けるということは非常に疲れている。開業医の医師もケアマネもみんなで病院医師を支えるようにコーディネートしていかないと地域医療が疲弊してしまう

【成果】

- ・総勢11人で開催。
- ・先生の医療や介護に対する思いなど伺い、地域開業医の置かれている立場や地域住民から絶大な信頼と期待を背負って、診療されている様子が非常によくわかった。
- 先生のお話から一部紹介
 - ・「寄り添うような支援」を心がけている。
 - ・在宅で介護するということは、患者だけでなく、患者を取り巻く家族などもひっきりめて診ていくこと。
 - ・そして、全力で付き合っていくという姿勢を見せないと信頼関係は生まれない。
 - ・ケアマネはとても大事な存在であり、コネクターのようなつなぎをする役目である。そして、情報を一番管理できる人なので、いろんな人に情報を入れてほしい。
 - ・医者として、目の前にいる患者だけでなく、家族の思いなども聞くようにしているが、充分ではない。特に遠方に家族がいたりすると、こちらの思いが届きにくいこともあるので、皆で協力して患者や家族に寄り添うような支援が出来たらと考えている。

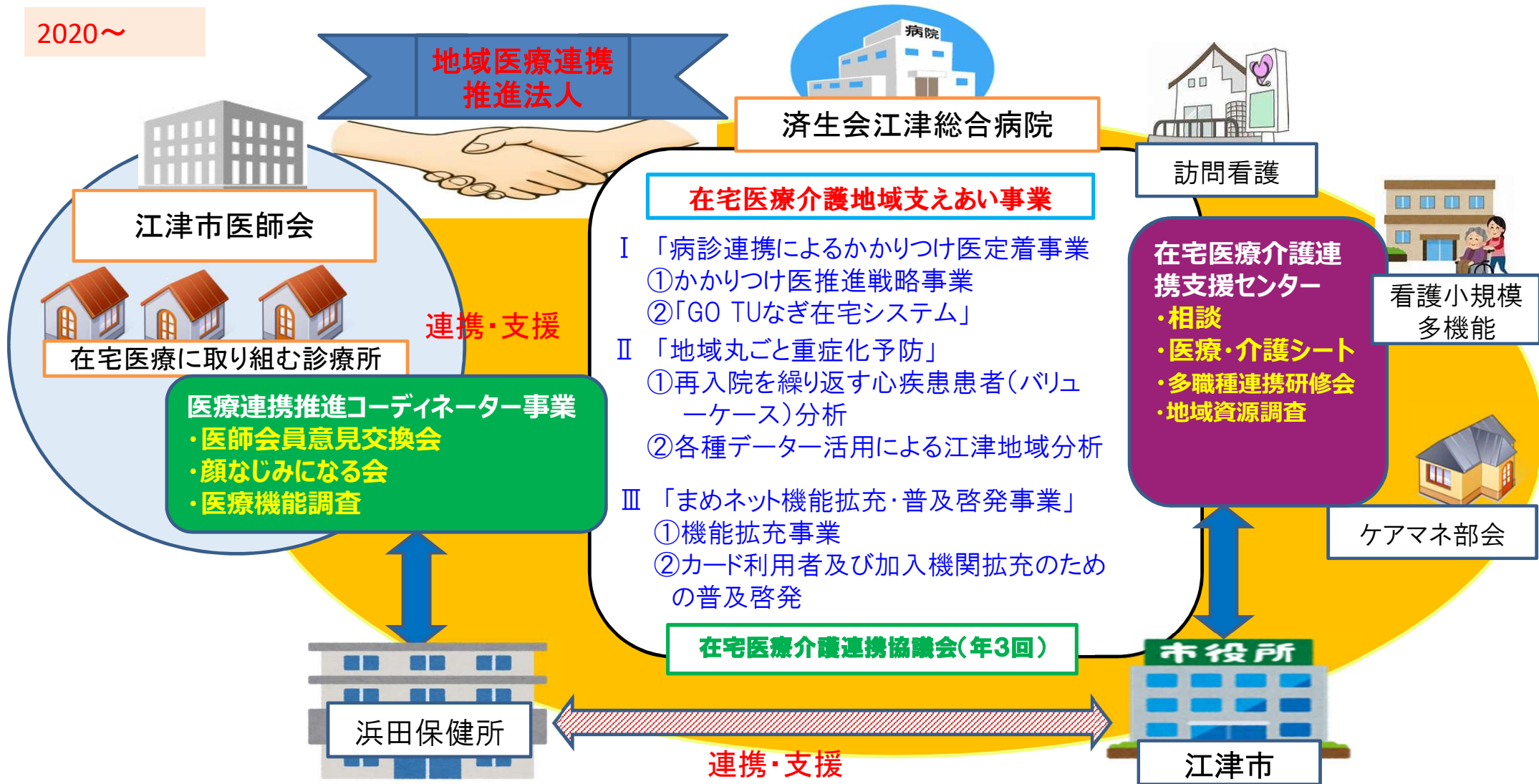
医療連携推進コーディネーター事業 取組の成果

- ①在宅医療に関する課題について、医師会員の中では、改めて認識を深め、何とかしないとイケないという機運が出ている
- ②訪問診療を新たに開始したり、エリア拡大された医師が出てきた。
訪問診療を受けにくいエリアの解消（ネックは24時間体制の確保と各種の申請行為と訪問診療をする上での細かい疑問や不安だった。）
- ③これから、訪問診療を開始する意思をお持ちの先生も出ている。
- ④会員（医師）間のフラットな横連携の場が確保できた。
- ⑤済生会江津総合病院のまめネット機能拡充（出力項目・診療予約）
- ⑥ケアマネや訪看との医療との情報共有が進んだ
- ⑦かかりつけ医制を進める機運上昇
- ⑧地域開業医同士の意見交換の場の定着化
- ⑨済生会病院を支えることが地域医療の維持につながるという地域開業医の思いが表面化してきている。

ここを押
さえれば
OK!

江津市地域包括ケアシステムの連携イメージ(今後の体制づくりに向けて)

2020～



地域医療連携推進法人の2020年度の取組

在宅医療介護地域支えあい事業

【事業目的】

保健・医療・介護関係者が地域の課題について分析し、質の高い在宅医療介護の提供体制の構築と総合的な取組を図ることを目指す。

圏域内の浜田医療センターと済生会江津総合病院の2病院が地域の介護施設等と連携して圏域内でより良い在宅医療介護サービスを提供するための方策を検討する。

I 「在宅医療介護連携協議会」の設置・開催

全事業が有機的に展開できるよう関係者が集まり協議・検討する会
(浜医・広域行政組合・訪看代表・看多機・医師会・江津市他)

地域医療連携推進法人の取組

在宅医療介護地域支えあい事業

Ⅱ 「病診連携によるかかりつけ医定着事業」

- ①かかりつけ医推進戦略事業・・・病院職員（医師他）意見交換会
- ②「GOTUなぎ在宅システム」・・・看取り代診医紹介システム

Ⅲ 地域丸ごと重症化予防

- ①再入院を繰り返す心疾患患者の分析
- ②各種データ分析

Ⅳ 浜田圏域2病院と介護施設等との連携推進事業

Ⅴ まめネットを利用した病院・診療所訪問看護ステーション等の連携促進事業

今後に向けた取組

- ①在宅医療提供体制の維持・向上のために、医師間（病院・開業医）の情報連携を進める必要がある（Face to Faceと IT活用）
- ②人材活用（病院医師の知識と技術＋医師会医師の知識と技術）
- ③市民啓発（医療の受け方、最期の迎え方、私の未来ノート）
- ④医療と介護の情報連携
医師と顔なじみに
ケアマネから医師への情報提供もさることながら、医療側から介護側へ、介護事業者同士の情報連携必要
- ⑤出来るだけ住み慣れた地域で療養が出来るような体制づくり
- ⑥心不全の再入院を防ぐのではなく、早め早めの入院治療を。
- ⑦セルフケアも含め、予防的訪看の活用を。